

教員氏名：乳井勇二（教育学部教育学科スポーツ教育専攻／講師）

1. 教育の責任

教育学部教育学科スポーツ教育専攻に所属し、教育・研究活動を行っている。主に2年次開講となる「体育経営管理学」、「スポーツ指導法」、「体力測定評価」の授業を担当している。その他に実習科目となる「生涯スポーツⅠ（キャンプ実習）」、「生涯スポーツⅡ（スキー実習）」やオムニバスで「健康管理論」、「健康実践演習」、入学年次の基礎教育科目となる「総合ゼミ」を担当している。

授業以外では学生支援委員、キャリア支援委員、学生募集委員、図書運営委員、地域連携推進室、スポーツ推進室の業務を担当している。

2. 教育の理念

体育・スポーツを実施していく上で、安全で安心できる環境づくりは絶対条件である。しかし、熱中症や練習中の事故などをはじめとして、気象条件などの環境が要因となっている事故や教員や指導者が正しい知識を習得していない状況による事故が後を絶たないのが現状である。体育教師や競技スポーツにおける指導者、生涯スポーツを目的としたスポーツインストラクターなどの体育・スポーツの経営者を担っていく学生がそれらについて理解を深めていくことは非常に重要な責務であり、体育・スポーツの安全管理には欠かすことのできない知識である。このような状況を踏まえ、体育・スポーツに関する正しいマネジメントの知識や、より良くなるための方法を習得することができる授業を展開していきたい。また、これらについての理解が深まることでスポーツ界だけでなく社会全体に対して大きな責任を持つと考えている。

3. 教育の方法

① アクティブラーニングの取り組み

1 コマごとにテーマを設定し、それらについて深い学びに繋げていくための方法として、小グループによるディスカッションやディベートを繰り返し、グループ内の意見を全体で共有する。これにより個人の考えからグループ内、さらには受講者全体の意見や考えを聞き、話し合われた内容を踏まえ個人の考えをまとめていくことで、より深い学びに繋げていくことが可能となる。また、授業内での学生の発表や作成した資料について、学生同士が評価やコメントをする機会を設け、受講者全員が参加できるような工夫をしている。また、グループワークでのグルーピングをする際には日常の友人同士でのやりとりではなく、これまでに接したことのない学生同士がグループを作れるように共通点を提案したり、全くのランダムに設定するなどの工夫を行っている。

② ICT を活用した取り組み

授業では google classroom を活用し、課題の提出や授業に関する情報提供を行っている。また、google meet を用いてチャットを活用しながら受講者の考えや意見、その時の感想をリアルタイムで抽出し、受講者が積極的に参加し、意見を共有しながら授業を展開している。また、授業内の発表の際にも meet を活用することで学生が利用しているパソコン内で資料を共有することができるため、時間の短縮にも繋がり、学生の発表時間の確保や話し合いの時間を増やすことも可能となっている。さらに google form を用いてアンケートを行いながら、受講者の考えを抽出し、授業内のテーマや体育・スポーツに関する課題を見つけ、受講者自身が当事者となれるような工夫をしながら授業を展開している。

③ 受講者への配慮と工夫

毎授業の振り返りとして「リフレクションシート」の提出を課している。授業への理解度や授業に対する感想などを記述しているため、授業内容が適正であるかなど授業者自身の振り返りとしても活用できている。

4. 教育の成果

学習の成果および授業の評価については、令和 7 年度に実施した主要科目の学生の成績及び授業改善アンケートの結果に基づいて説明する。まず、成果としては表 1 の担当科目成績分布一覧に示した通り、それぞれの授業科目で 7 割程度は S 及び A 評価であり、大半の学生は授業内容を理解し、単位を修得することができている。一方で 3 割程度は B 及び C 評価であり、授業内容を十分に理解しているとはいづらい結果であった。特に体育経営管理学については C 評価が 16 名であり 2 割弱の学生を占めてしまう結果であった。授業内容に加え、提出物などの授業ルールを徹底することができない学生が存在しており、改善に努めなければならない。

表 1 担当科目成績分布一覧

	スポーツ指導法	体育経営管理学	体力測定・評価 法	健康管理論
S	33	16	27	23
A	55	30	30	36
B	21	22	8	15
C	11	16	1	3
不可	0	0	0	0
合計	120	84	66	77

次に授業評価については、表 2 の授業改善アンケート結果に示した通り、5 点満点の評価で全ての科目、項目で 4 点以上であり概ね高い評価であった。特に健康管理論では学生自身の取組と全体的印象において 4.5 点以上であった。一方で体育経営管理学とスポーツ指導法においては全ての項目で 4.5 点以下であり、特に授業内容・方法で改善が必要である。

表 2 授業改善アンケート結果

	スポーツ指導法	体育経営管理学	体力測定・評価法	健康管理論
学生自身の取組み	4.48	4.30	4.50	4.57
授業の内容・方法	4.16	4.10	4.20	4.32
全体的印象	4.39	4.25	4.30	4.57

しかし、授業内のリアクションペーパーやリフレクションシート、授業改善アンケートの自由記述などからは、前向きなコメントが多数記述されており、授業に意欲的な学生にとっては理解を深めることができていることが予測できるが、そうではない学生にとっては、説明方法や興味関心を高めていく手立てが必要である。

5. 教育における今後の目標

① 短期的な目標

当面の目標として、授業の受講者が将来的に体育・スポーツに積極的に関わり、その学生たちが関わっていく子どもたち等が体育・スポーツに関わりたいたいと思えるような立場や考えを持てるような学生を育成していくことが課題であると考えている。そして、それらに必要な知識や能力を身に付けさせることができるかを重要な課題である。そのためにどのような情報が必要で、それらをどのような方法で伝え、身に付けさせていくかについて、より質の高い授業を目指していきたい。

② 中長期的な目標

当面の目標を踏まえ、中長期的な目標として、学生だけでなく、地域の人々や社会全体に体育・スポーツの必要性や価値についての理解が深まるようなアプローチをしていきたい。具体的にはすでに行われているような地域の方々に向けた公開講座や、子どもたちと身近に触れ合いながらスポーツの楽しさを伝えていけるような場を作っていきたい。体育・スポーツと聞くと競技の側面が強く考えられてしまうが、それだけでなく、スポーツ観戦や競技の運営、体の動かし方を知るなど、さまざまな視点から体育・スポーツを楽しむことができる環境を作ることで、より多くの人が気軽に関わることができ、地域の活性化と健康寿命の延伸に貢献していきたい。

【添付資料】

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/yuji.chichii>

2026 年 6 月 30 日現在